

第8回美作市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和元年11月27日(水)
午後10時00分～午前11時45分
- 2 場 所 美作市民センター 3F大研修室(美作市栄町35番地)
- 3 出席者 (敬称略)

(1) 構成員

市長	萩原誠司
教育長	大川泰栄
教育委員	佐々木勇
教育委員	平田邦義
教育委員	岡本美幸
教育委員	万殿貴志

(2) 職員

教育委員会	教育次長	山名浩二
	教育総務課長	宮前聖
	教育総務課課長補佐	渡邊祥子
	教育総務課総務係長	神原克紀
	教育総務課主査	太田純子
	学校教育課長	竹内龍一郎
	学校教育課課長補佐	甲本智之
	社会教育課長	丸山健一
	社会教育課課長補佐	皆木いそ美
企画振興部	企画振興部長心得	平田幸春
保健福祉部	保健福祉部長	江見勉
	健康づくり推進課長	山下富貴子
総務部	秘書課長	長畑真吾
	秘書課秘書係長	黒澤勉

- 4 議題及び議事概要 別紙のとおり

1 開 会

(事務局：長畑秘書課長)

ただいまから、第8回美作市総合教育会議を開催いたします。

開会に先立ちまして、本会議の傍聴希望者が3名いらっしゃいますので、会議の傍聴に関して、委員の皆様にお伺いをいたします。本会議は美作市総合教育会議設置要綱第6条の定めにより、個人の秘密を保つため必要があると認めるとき、又は会議の公正が著しく害されるおそれがあると認めるとき。その他公益上必要があると認めるとき、を除き原則公開となっております。

お手元の次第のとおり、本日の協議事項は4件を予定しておりますが、会議を公開することについて、ご異議はありませんか。

(異議なし)

異議なしと認めますので、この会議は公開会議とさせていただきます。これより、傍聴希望者に入室していただきますのでよろしくお願いいたします。

(傍聴者入場)

(事務局)

総合教育会議の開催にあたり、萩原市長からご挨拶を申し上げます。

2 市長あいさつ

(萩原市長)

教育の問題は、国としても地域社会としても基本中の基本である。継続的にしっかりやることで、次の社会の担い手ができて我々も安心できる。文化にしろ、芸術にしろ、教育の問題を抜きにはなり行かない。義務教育はやや複雑な体系となっているが、基本的に市町村がその任に当たる部分が多い。かつてはGHQの方針によって、県および市町村においては教育委員会制度をもって思想的な色彩を排除することから始まっているが、ご案内のとおり、我々の国は民主的な開かれた国となっている。そういった中で、4年前に教育基本法が改正され、市長部局の声を入れながら、教育のことについて皆で考えていく形となっている。県内の教育大綱を見ると、さまざまな形があり、5行ぐらいで終わっているものもあれば、我々のところのように、綿密に思いを書いているものもある。どこがうまくいっているかを見ながら、日本全体がいいところを真似する形で、全国に教育の推進のために新たなエネルギーを与えていくことが期待されている。我々も小さな自治体ではあるが、国にとってよい事例ができればと思っている。我々の意見もあるが、教育委員の皆さんの自由に前向きな意見をたくさん盛り込むことにより、それが可能になるものと考えている。今あるものは出発点として尊重し、それだけにこだわらず、皆さんの発案を新たに取り込んでいくことになれば、この会議が実質的なものとなると信じている。ぜひ忌憚のないご意見を賜るようお願いしたい。

(事務局)

続いて、教育委員会を代表して、大川教育長からご挨拶をいただきます。

3 教育委員長あいさつ

(大川教育長)

本日は総合教育会議ということで、市長部局と教育部局がしっかりと意見を交換する機会となっている。教育委員は市長の挨拶にもあったとおり、根幹はレイマンコントロールであり、市民の皆さんから忌憚のない意見を教育行政にいただくということである。ぜひ、活発な意見交換が行われますよう、また、教育と連携の深い福祉部局、企画振興部からもお越しいただいているので、よろしくお願いをしたい。

4 協議事項

(事務局)

それでは協議事項に入らせていただきます。以後の進行は、美作市総合教育会議設置要綱第4条に基づき、萩原市長にお願いします。

(萩原市長)

協議事項はお手元の次第にあるとおり、まず、美作市教育大綱に基づく施策の取組状況、つまり、計画と進捗状況の点検というところを、事務局から説明を申し上げるのでよろしく願います。

(山名教育次長)

本日、9時から教育委員会を開催し教育部局の事務の点検および評価の報告を行い、教育部局分については説明をさせていただいている。それを受けて、市長部局分の取組状況について説明をいただきたい。

(萩原市長)

傍聴の方もおられるので、掻い摘んで説明してもらいたい。

(山名教育次長)

それでは、教育大綱に含まれている点について各課より説明させていただく。

(宮前教育総務課長)

教育大綱案の2ページをお開きください。施策1の療育の取組として、保健福祉部、専門機関との連携を行い、巡回相談等を含めた活動を行っている。支援が必要な子に必要な支援を行っていくことに主眼を置いており、現在、少しずつではあるが取組が進んでいる。施策2の就学前教育の充実・向上については、就学前教育アドバイザーを4年前に配置し、現在は幼児教育アドバイザーであるが、4年目を迎えている。併せて指導保育士を1名、教育総務課に就学前教育指導主事として配置している。保育士の負担軽減としては、保育支援員の配置を行っている。

施策については大きく変更した点はない。

(竹内学校教育課長)

学校教育課分は3ページとなる。特別支援教育の推進ということで、4点の施策を上げている。施策について変更している箇所は、特別支援学級に所属する児童などの数字を変更している。学力向上に関しては、全国学力・学習状況調査の記載される形式が変わったことから、それに合わせる形で修正しているが、3つの施策について変更はない。

(丸山社会教育課長)

案の8～9ページとなる。公民館事業について、今までは貸館からの脱却が主な内容であったが、大原、英田については、公民館主催事業が活発に行われており、これを踏まえ、公民館の体制としては、学習活動を推進するとともに、コミュニティなどの課題解決をめざし、公民館主催事業を積極的に開催することで、地域住民とのネットワークの再構築を行う。また、市内18箇所ある公民館を中学校区に1館を基本とする再編整備を進め、同時に公民館長を随時増員配置することを盛り込んでいる。

また、図書館事業については、今年度導入する移動図書館の利活用を推進することにより、新たな利用者の掘り起こしを目論んでいること、公立図書と学校図書の効率的連携をすることにより、本と子どもたちを結びつける内容を盛り込んでいる。文化芸術活動の推進については、先日も世界的なマリンバ奏者の演奏を大原地域で行ったように、各小中学区へのアウトリーチという形でダイレクトに伝えている。こうした活動が現在できるようになっており、美作市民の文化化が進んでいると考えている。

美術館等については、常設展示から抜け出せない状況であったが、市民の方が積極的に、書道絵画等で利用する声もあがっており、文化財の展示も進んでいることから積極的に開催することとしている。

(萩原市長)

引き続き市長部局から願います。

(山下健康づくり推進課長)

別冊で取組状況を作成しているので併せてご覧いただきたい。2ページの施策1療育への取組ということで、発達支援センターの取組を報告する。発達支援センターでは28年度の開設以来、多くの個別相談を受けている。平成30年度の相談件数は実163人、延べ338件ということで、年々増加している。発達障害を中心に、子どもの発達についての子細の相談窓口として定着しつつある。保育園・幼稚園の巡回相談については引き続き教育委員会と協同で進めている。1歳6ヶ月検診で自閉症の傾向を早期に発見できるチェック表の導入を開始した。これは客観的に見ることができるとモデル的に取り組んでいる。発達支援教室は引き続き開催している。

次に大綱案の4ページとなるが、特別支援教育の推進の施策4療育と教育をつなぐ体制づくりでは、共通支援シートの活用を進めている。乳幼児から、小学校、中学校へとライフステージごとに支援が途切れてしまわないように、共通して使えるもので、推進に尽力している。関係機関連携強化研修会も開催し連携の強化に努めている。学校の教員や保護者を対象とした出前講座は今年度回数が多くなっており、発達障害を中心とした理解を深めることに努めている。発達支援センターにおいては、小学校、幼稚園、保育園に在籍している子どもさんの相談が多く寄せられていることから、教育委員会関係者とケース会議や連絡会議などを実施している。年1回発達支援講演会を開催し教育関係者、福祉関係者、保護者とともに、発達障害の理解を深める機会も設けている。

(平田企画振興部長心得)

大綱案の9ページからとなるが、スポーツの振興ということで、平成30年度を取組としては、市民や利用者のニーズを十分把握し、優先順位をつけながら、市民が気軽に運動やスポーツを楽しめることができるよう、各スポーツ施設の環境整備に取り組んでいる。美作野球場、大芦高原多目的グラウンド、大芦高原グラウンドゴルフ場、みまさかアリーナ、宮本武蔵頭彰武蔵武道館の環境整備を行っている。令和元年度の

取組計画としても環境整備に取り組んでおり、みまさかアリーナ、武蔵の里グラウンドゴルフ場、武蔵武道館、大芦高原体育施設の環境整備を行うこととしている。

次に、スポーツキャンプ等の誘致については、平成 30 年度の取組としては例年と同様となるが、サッカーU-17 日本女子代表候補、ベトナム女子サッカーナショナルチーム、自衛隊体育学校女子ラグビー班、自衛隊体育学校陸上競技班、日本ろう者サッカー女子代表候補の合宿、2020 東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ誘致活動を行っている。令和元年度については、スペイン女子 7 人制ラグビーナショナルチーム、自衛隊体育学校女子ラグビー班、自衛隊体育学校陸上競技班競歩、ベトナム女子サッカーナショナルチーム、サッカーU 16 日本女子代表候補、日本ろう者サッカー女子代表候補の合宿に加え、今年度大きな動きとして、アメリカ 7 人制ラグビーナショナルチームが男女ともオリンピックに出場が決まっており、その代表チームの合宿についておおむね合意がなされている。来年 3 月にアジアでラグビー 7 s のワールドシリーズが開催され、その合宿についても、美作で行うことで協議ができています。2020 東京オリンピック・パラリンピックのキャンプについては、男女のアメリカのラグビー 7 s の合宿についておおむね合意に至っており、できれば年内に基本協定を交わしたいと思っている。併せて、アメリカを相手国とするホストタウンについて内閣府と協議を行っている。

次に、スポーツ人材の育成ということで、こちらは例年通りの活動を行っている。スポーツ少年団の支援についても、平成 30 年度、令和元年度、同じように行っていく。続いて、高等学校教育の分野で、県立高校の魅力向上ということで、学区特例設定に向けた働きかけは新たな取組はない。また、みまさか学は、平成 30 年度は地域おこし協力隊を講師として実施している。令和元年度の活動内容は今月号の広報誌に掲載している。

大学等との連携による進学等の機会の確保については、平成 30 年度は、岡山大学、津山商工会議所等との連携、協力することを目的とした包括協定を締結している。令和元年度においては、平成 28 年度に包括協定を締結している美作学園とベトナムへの短期派遣となる日本語パートナーズ事業を 3 年連続で実施している。また、ベトナム人中高生との交流なども行っている。

I C Tを活用した新たな学びの場の創造については、平成 30 年度は Wi-Fi 等の通信環境の整備、令和元年度には「Chromebook」及び「G Suite」を活用した取り組みを深化させ魅力化を図っていく。

スポーツ医療看護専門学校の開設については、平成 30 年の開校時の入学者数が少なかったことから、募集活動について協力を行っている。令和元年度についても入学者が少なかったことから、滋慶学園本部と一緒に県内外の学校訪問などを考えている。また、引き続き、庁舎やその関連施設に学園の P R ポスターなどの掲示やホームページ、告知放送、広報紙への掲載などの支援を行っていくこととしている。

知的障害を対象にした美作市立特別支援学校（高等部）の開設については、平成 30 年度に岡山県教育庁と協議を行っているが、令和元年度は、引き続き、情報収集、関係書類の見直し等検討を行っていく。また、市議会においては、新たに設置された特別支援学校等調査特別委員会で説明を行っていくこととしている。

(萩原市長)

説明が終わったので、ご意見、あるいはご提言があればお願いしたい。

(平田委員)

公民館について 18 あるものを組み替えて、新しく中学校区ごとに館長を配置すると

ということであるが、大原の公民館は館長がおられ非常に活性化している。館長がおられることで年間の計画が立ち、非常に機会が増えている。ぜひ早めに館長を配置してもらい、活発になるようお願いしたい。

(萩原市長)

館長もしくは専属のスタッフがいないものについては、公民館と呼ばないということになる。大原・東栗倉で1つ、作東の公民館は、かつて中央公民館とっていたものの再編整備を行うことになるが、土居の分館は水害で大変だったので使わない方向になる。農協の跡を地区センターにしてもらいたいとの地元意見もあり、はっきりしていないがいずれにせよ再編は行う。英田は館長を配置している。もともと公民館という発想がなかった勝田は、大原、英田を見て必要性を感じるようになってきている。今ある施設を前提として、公民館活動を自主的に始めてもらい、できるだけ早い時期に館長を配置できればと考えている。美作については、林野公民館はおそらく地元のコミュニティハウスとなる。駐車場の問題があり、あの場所では無理である。避難場所としての適正な規模、地区住民が利用できる規模の駐車場、あるいは子どもが勉強できる場を想定しており、中央公民館にはなりえないと思っている。その際どうするかが課題であるが、新庁舎との絡みとなるのか、あるいは巨勢小学校跡地を活用するのか、これは美作地域全域を受け入れるかどうかでペンディングとなっている。後の支館については地区センターの位置づけになっていくのかなと思っている。5館体制プラスアルファ、アルファで言うと、栗井の方々が熱心にやられており、これを作東が支援するかどうか、仮にここに公民館ができたとすれば、巨勢を分館にせざるを得ないのかなとも考えている。数を限定する代わりに、しっかりと予算が取れるように、財政面の裏づけを考えていきたい。

(佐々木委員)

公民館の館長がおられるところは計画的にできると思うが、そうでないところは厳しい。図書館は車の移動でできるようになり、これは効果的であると思っているが、館長不在の館は、たとえば出前講座のような形、あるいは共催するとか、講座の充実をしていかないと、先輩方が学習したことを後進に伝えられなくなるのではなかろうか。

(萩原市長)

地域資源にはよいものがあり、先輩方が残されたものがある。館長が配置されれば、その方のセンスもあるとは思いますが引き継がれていくとは思いますが。複数館あると、館同士の連携であるとか助け合い、競争といったことが生まれてくる。大原がやっていることを英田が取り入れ、英田が頑張っているのが大原に良い影響を与えている。3館ぐらいに増えればまた変わってくると思う。

(平田委員)

映画なども、大原と英田の2箇所しかしていない。他の地区も観えるようにしないとけない。

(萩原市長)

やはり、人的配置は必須だと感じている。

(万殿委員)

英田はカフェをされており、地元のお年寄りなどが集まり、費用も安く抑えている。角南館長さんは適任の方だと思っており、新しいことに挑戦されている。今度は30周年とのことで、イベントで水戸黄門の寸劇があるとのことだが、そういうことも館長がいてはじめてできる。人選は難しいと思うがぜひやっていただきたい。

(萩原市長)

各々説明があったが、課題が見えなかった。例えば、就学前教育の課題は何であるか、小中における課題は何か、スポーツはややいびつで、オリパラがあることから営業をかけるために教育部局から市長部局に持ってきているので、教育の面から見ると実績報告でやむをえないと思うが。後は、発達支援を含めた、教育部局のものも含め、もう少し明確に課題はなんだったかと言うと、放置の解消だったはず。幼少期における発達障害の可能性に対して、放置していることを何とか解消したい、そういうことだったと思う。

もう少し課題というか、前進したことを述べるべき。例えば勝央町から越してきた方の声であるとか。まずはどういう課題設定をしているのか、教育総務課から少し説明を願う。

(太田教育総務課主査)

就学前教育について説明させていただく。平成28年度から指導保育士、就学前教育アドバイザーを配置しており研修を充実させている。課題として、教師主導型の保育ということを経験しており、子どもの発達に応じた保育というものを今一度見直している最中である。スクリーニング検査を実施したところ、5歳児の1/4が要検査の判定となった。このことから、子どもの知的発達についても、やや緩やかというか幼いというか、子どもの遊びを見てもそのような傾向が見られる。より就学前教育の質の向上が求められている。子どもたちが自ら考えて、人と協同しながら問題解決をしていく能力を育むために、3歳未満児から保育を充実させて、子どもたちが主体的に行動できる、自分たちで遊びや生活を切り開いていく保育をすることが課題であり、過渡期であると考えている。

(萩原市長)

とてもよい課題設定であるように聞こえた。そういった課題設定をした上で、どう変えていくかを考え提案していく。プッシュ型の保育となっている、それは違うだろうという感じを持っているわけで、言っていることはものすごく大きなことで、それであれば超前面に書いておく必要がある。

(大川教育長)

昔であれば、鼓笛隊で小さい子が先生の言われた通り、音を乱すことなく演奏することをよいとするイメージがあるが、そうではない。

(萩原市長)

自然とのコミュニケーションの中で疑問や問題が出て、その疑問や問題を仲間や大人とコミュニケーションする。その辺が今の幼児教育の主流になりつつある。そうなってくると、園庭も運動場ではなく探索場ようになってくる発想があり、そういうことも必要かなという位に理解している。生きていくというのは、昔は野原の中で生き延びていくということであって、その辺の感覚を奪ってしまった、田舎でもそういう問題があるのかな、ということを感じている。5歳児は何かにとうるさいぐらい聞

いてくる。一緒に考えて話をしていくうちに、だんだんと変わっていくことがあると思うが、その辺の仕組みというか、園の整理の仕方。保育園をバリアフリーにするのは本当にいいのかという議論もある。もしかしたら、保育士の態度が悪いというのではなく、保育施設の態度が悪いということもあるかもしれない。

(岡本委員)

スクリーニングで 1/4 が必要といわれていたが、環境が影響しており、保育士も環境のひとつではあるが、それが狭まって現れているような気がする。例えば、管理して締め付けていることで、先生の言うことを聞けない子が、発達障害あるいは気になる子になる可能性がある。市長の言われた自然環境が大事というのは理解できるが、猛暑になっており、園庭に出す制限もかかる。場所を変えてでも運動できるような工夫も必要。

(萩原市長)

人的環境としての保育士の面もあるが、物的環境はどうか。物的環境が保育士に則したものになっている可能性もある。

(岡本委員)

働き方改革といわれており、保育士も負担がある中だと思うが、子どものために手作りのおもちゃを作ったり、ここにあるように美作市は環境を考えられていると思うので、施設の充実が求められるのではないかと思う。

(萩原市長)

難しい問題であるが、基本的態度としては、太田さんが言ったようなことを、私見的にいうとプッシュ型の保育士ではなく適応型の保育士にしたい。園庭にしても決め付けたものではなく、探索型の発展性のあるものを考えていく必要性があるのではなかろうか。

(太田教育総務課主査)

小中学校は教科書で学習をするが、幼児教育の教科書は言われるように環境である。園内の環境の見直しということで、植物を植えたり、築山を作ったり、タイヤやロープなどを工夫して、心と身体と五感をフルに働かせて遊ぶことができる素材を増やしたりということで取り組んでいる。

(萩原市長)

そのときに重要になるのが、どんな風に、どんな植物を誰と植えているかに工夫の余地がある。

(太田教育総務課主査)

子どもがその環境にどのようにかかわって、遊びや生活に取り入れていくか、それが大事なことなので、そのあたりの視点で、子どもたちの年齢や発達にあった環境には、どのような植物が必要なのかはこだわり抜いて、話し合いをしながら進めている。各園の特色を生かした植物を選んでいる。

(萩原市長)

各園の特色を生かすというところで、プッシュ型に戻っている。各園の特色と子ども

もの視点は必ずしも一致しないので、思考停止してプッシュ型に戻らないよう注意が必要。

次に、学校教育課から。

(竹内学校教育課長)

大綱では学力調査について触れている。子どもたちの確かな学力を身につけるには何が課題となるかということである。成果としてあらわれているところは、やはり学校長のリーダーシップのもとに、取り組んでいくということがはっきり、全職員で統一しているところは結果が見えてきている。小中連携においても見えている。小学校での課題、中学校での課題を共有し、こういう取組をしていく、家庭学習ではこういう働きかけをしていこうということがしっかり見える、こういうことを目指している。

(萩原市長)

今話を理解するとすれば、課題は校長ということになる。いい校長先生をそろえることが課題です、というのが要約となってしまう。それは、どうやって解決するのか。

(大川教育長)

校長を育てるのは難しいことだが、それとともにひとつの大きな課題は、子どもたちが将来に向けてどうして行くか、キャリアというか、目標が見えないのに勉強をなささいといわれてもできない。そういうものをもう少し明確にする必要があると考えている。

(萩原市長)

校長は環境が変わる話で、いい環境を作ろうとして頂点に校長がいる。一方で内在的に援助をしていますということで、目標設定を付けていけばおのずから動いていくことになる。子どもたちの内在のエンジン、つまり自分の目標を設定するのに大人がどう教育するか、これは間違いなくある。一方で、子どもに言うてうまくいくという例はそう多くない。そうなると環境のよさ、校長の力というのが必要となり、両方があいまってうまくいくのかもしれない。

(佐々木委員)

私は校長のリーダーシップということ強く思う。野球でも仰木マジックで監督が変わればチームが変わる、校長が変われば学校も変わる。率先垂範でやってみたり、校長評価を職員にさせて何が足りないのか、そういうような状況の中から改善していかないと、なかなか改善できないのではないかという思いがある。

(萩原市長)

校長先生はどういう形で任用されるのか、試験があるのか。任用された後、各校に配属され、なぜいい評価があって、素晴らしい方が定年で辞めないといけないのかという疑問がある。

(大川教育長)

今は、例外的に再任用が認められている。実際に美作市でも江見小の校長が今大原にいる。

(萩原市長)

例外でなくともいいと思う。いい校長というのは貴重な資源である。

(万殿委員)

リーダーの良し悪しは、優秀かどうかということではないと思う。子どものためにどれだけ自分を犠牲にできるか、その意気込みがある先生がいいのではないかと思うし、いい先生を見習う、私も自分の会社で社員に言うが、いいことは徹底的に学べ、学ぶということはまずまねること、そこから先に自分が考えていくということが大事だと思う。いい先生がおられればそういうところをしっかりと学んでいくことがひとつは大事である。また、子どもの目標設定、これは絶対重要だと思う。いくら勉強をしなさいといわれても、勉強が楽しいということはない。ただ、ほめられたら楽しい。一番いいのは目標設定をして、目標に向かって勉強しないと自分のなりたい仕事には就けないということ言えば、たぶん一生懸命やる。難しいと思うが、目標を紙に書いて、それを目指して頑張る。

(萩原市長)

今はどんな目標が出てくるのだろうか。女の子であれば看護師などが多いのだろうか。

(万殿委員)

うちの孫はユーチューバーである。

(大川教育長)

小学生の目標の、男の子の第3位がユーチューバーである。

(萩原市長)

ユーチューバーになりたいと言ったときに、どういう指導ができるのか。

(万殿委員)

まずは、コミュニケーションが大切。そうすれば言葉を知らないといけないので、それなりに国語などもやらないといけない。

(萩原市長)

ユーチューバーと書かれても、アアということでそこまでは聞いてない。英語は絶対に必要になるとか。その辺からの補助的な思考回路の付け加えができていないかもしれない。

(平田委員)

校長は孤独なものである。校長のサポーターがない。地域と保護者の絡みで校長を助けていく形ができれば一番いいと思う。教員の働き方改革の中で、地域がすること、学校がすることをさびわけするのは、コミュニティースクールをやるところはその辺がうまく流れている。英田では地域で広がって、学校、校長を支えるということができてうまくいっている。

(萩原市長)

若干補足すると、英田は大変な苦勞の中でそうなった。美作中も割合サポーターがいる。勝田もいる。いい校長の時には寄ってくる。いい校長が長くいて何が悪いのかということ、だんだんわかり始めているのかもしれない。保育園でも優秀な先生には残ってもらっている。保育は任用が市なのでできるが、学校は岡山県が絡んでくるので難しい面がある。

(佐々木委員)

先ほどの地域との関係、英田の実態も教育委員会にいたのでわかるが、教育長がこんなことを言った。英田を希望する先生が多くて困る。英田中に勤めたい、それは何なのだろうか。やはり教育長自らが、率先垂範でやられた、地域との連携がうまくいった、そういうことではないだろうか。もう20年位前の話である。

(萩原市長)

合併前の英田と西栗倉は天国だったと思う、みんな行きたがった。

(佐々木委員)

保健福祉がいろいろなデータを出されたが、教育委員会との連携がどうなのか。例えば定例会のところで。

(萩原市長)

そのことは後にしていただき、順番に。学校教育の課題は、内在的エンジンをどう付けるかということと、校長の課題という2つが上がった。公民館以外で社会教育は課題があるか。

(丸山社会教育課長)

図書館の運営について、図書館は全地域にあるものの、利用者が中央図書館に偏っている。英田、作東は比較的大きいが利用者は少ない。勝田、大原、東栗倉については小さい図書館であるが、東栗倉は県立図書館からも良い評価をいただいている。勝田、大原に図書司書を置くことで、人的な配置の予算取りと図書購入の予算が他の自治体に比べて限られてくる。その解消のために移動図書館を有効に活用して、勝田、大原の時間を少なくするという方向も考えているが、拠点となる図書館が必要との住民の声がある。

(平田委員)

大原の蔵書は本当に少ない。蔵書を増やしていただきたい。

(萩原市長)

今の話に見え隠れする課題は、図書館の状況に関する住民の方々に対する理解促進のためのPRがあまりできていないのかもしれない。突き詰めて言えば、勝田、大原が要らなくするために巡回しているということになり、それはそれとして、そういう意識が運営サイドにあることを、住民が理解しているかということ、されていない可能性がある。蔵書については、同じものをもう1冊買うというのはいかがなものか、そうになってしまうのか。

(丸山社会教育課長)

基本的には新しいものを1冊買い回していく。ネットワークで予約できるようにな

っているが、その場所がないという状況になる。

(萩原市長)

蔵書の質ということで、近隣を見てみると、勝央はなんとなく良い感じがする。まず、美作の中央図書館をどう発展させるかが課題になっているような気がする。

(平田委員)

民間が図書館を経営するという話を聞く。庁舎を建て替えたときにそういうものを作ってはどうか。

(萩原市長)

ツタヤが一度見に来たことがある。もう少し強い交通結節点があればよいなと言って帰っていった。民間でやってくれそうなのはツタヤぐらいと思うが、彼らの評価基準からすると届かない。

(平田委員)

高粱はうまくいっている例である。

(大川教育長)

高粱は大学がある。

(萩原市長)

大学も含めてニーズとの関係。住民の図書館としての役割をもう少し考え直す必要がある。たとえばここも2階まで含めて図書館にする。2階の閲覧室にはコーヒースーバーがあるといった。

(佐々木委員)

図書館は校長も率先して、ここに行けばこういった資料がある、こんなものがある、なければ依頼してどこからか取り寄せてもらう、そういう、住民だけではなく学校からも取り組めるのではないだろうか。

(丸山社会教育課長)

学校図書と公立図書の連携を深めるために、司書資格を持った者を学校司書として派遣している。試行状態であるが、学校図書の蔵書基準を満たしているかを調査するなど取り組みをしている。

(萩原市長)

学校司書の方々がすばらしい活躍をすることがある。学校司書の読書感想文を一度やってみてはどうか。学校司書が本を読んで感想文を書いて子供に向ける。

(佐々木委員)

学校司書は鳥取県が100%置いている。通常であれば12学級以上が必置になっている。

(大川教育長)

司書教員だと思う。

(萩原市長)

いずれにせよ、学校司書の方々が、子供たちの本を紹介するのに、本に書いてある裏書では弱い。自分で読んで感想文を書いて、どう子供たちに広めるか。

(丸山社会教育課長)

学校司書として行っている方の中でも、司書会議を行い、私はこういう取り組みをしているという話の中で競争意識が出てきつつある。江見小に行かれている方は、作東の事務所で新聞をコピーして、ノーベル賞のことや共生社会のことなど、子供向けのところだけ切り抜いて、かなり興味を引く文章で図書につなげるということをするなど、優秀な方もおられる。

(萩原市長)

そういう司書としての活動をもう少し掘り起こす場を作ったほうがよいと思う。

(大川教育長)

司書の仕事はバーコードを読み込むだけではないといつも言っているが、だんだんと意識が変わりつつある。

(萩原市長)

せっかく議論したので、そういったことも書いておいたらどうか。

文化財関係これは良いか。企画振興部で、スポーツのことがあったが、子どものスポーツ絡みで何かあるか。あるいはスポーツ協会やスポ振、指導員などのことで。

(平田企画振興部長心得)

スポ少のことが指導者も含めて課題になっている。スポ少と専門的にスポーツを教える指導者とがはっきり分かれてきている。スポーツ少年団で活動する子が減ってきて、野球であるとか、専門的な、例えば高校野球を目指すといった形に分かれてきている。

(萩原市長)

学校にも関係してくるが、専門化してきたことにより、部活でやるのではなくキラッとした世界でやるという感じ。その傾向をどう考えるかだが。

(佐々木委員)

スポーツ少年団に入る者も少なくなってきた、取り合いになっている。私がやっている競技も4~5名となり、もうつぶれるかもしれないということを知り、何とかしないといけないという形で集めた。今18人まで増えてもう少しで20人になる。そこまで持っていったが、なかなか、若い人が出てこない。親の感覚が変わってきている、しんどかったら休めばいい、辞めればいいといった、弱い心に繋がっているように思う。その辺を改善するのが厳しい状況である。学校も全くしていないわけではないが、もう少し協力体制というか、例えば試合があれば覗いて、がんばれと言えば励みになる、そうすれば変わってくるのではないかと思っている。

(萩原市長)

スポ少とスポ協の関係は整理できているのか。

(平田企画振興部長心得)

微妙な状況である。前の体育協会がスポーツ協会になり組織もきちっとやりなさいという指導もあったが、やはり、スポ協に加盟している組織とスポ少が微妙に別組織のようになっているので、その連携は課題だと思っている。

(萩原市長)

連携ができていないということか。明確な方針が出せる分野ではないかもしれないな。

スポーツに関連して、他にないようであれば、健康づくりから。

(山下健康づくり推進課長)

発達支援センター設立については、発達障害は多くなっていると取り上げられる中で、美作市の窓口がはっきりしていなかったという課題があったが、支援センターということで表に出したことにより、だんだんと市民に浸透してきている。

(萩原市長)

近隣のまちの方の利用はあるのか。

(山下健康づくり推進課長)

近隣の方の利用はない。

(萩原市長)

引っ越してきた方がいる。発達支援のレベルが高いので勝央町から引っ越してきたと言う話を聞いた。

(山下健康づくり推進課長)

発達支援センターがあるということと、教育と連携をしていることを聞かれたのかもしれない。どこの市町村も保健福祉分野と教育委員会の連携がとりにくいと言われている。そういった中で美作市は、しっかり連携していく努力をしていると思っている。

発達支援センターを開設してからの課題として、小学校になってから、中学校になってから突然相談が舞い込んでくる。市長の言われていた放置という課題があると思っている。統計は取っていないが、減らさないといけない。

(萩原市長)

発達障害の課題と言うのは、日本社会の中で、よくわからないということで放置されてきた。これに対してはそれなりの答えが出ている。

(山下健康づくり推進課長)

1.6歳検診の受診率が高く、そこでのM-チャット、客観的に判断できる、早期に発見できるものを取り入れていく対策を始めている。3歳では教育委員会でのスクリーニング検査といったところで、まずは早く見つけることに力を入れており、今後成果を出していきたい。

共通支援シートを連携して進めている。幼稚園・保育園から小学校、小学校から中学校に力を入れたいと思っているが、大きな課題として、中学から高校、そして高校

から社会人、生涯を美作市で送っていただくためのサポート。うち、まず大きな課題としては高校進学に向けての切れ目ない情報共有だが、個人情報のことで難しい面もあるが課題だと思っている。

(萩原市長)

個人情報のことはあるが、課題を放置してはいけないのではという声も強まっている。昔は仕事をしない人に働きかけていたが、今は個人情報ですからとって仕事をしないと言う問題があって、効果としてまじめに考えないといけない。法律で対応するケースもあれば、独自の条例でそこを和らげる方法もあるかもしれない。

(萩原市長)

各担当部局から課題と問題がでた。明確な方向性があるもの、あるいは複雑すぎてそう簡単にいかないものもあったが、現状について共有、分析をさせてもらった。

次は、(2)の令和元年度版の美作市教育大綱についてということになるが、今手元にあるものは、先ほどの議論が含まれていないので、ひとつの参考となるが、その理解の上で目を通していただき、先ほどの話も踏まえた議論をお願いしたい。

(宮前教育総務課長)

P2の美作市の子どもの現状と課題ということで、就学前教育の充実・向上、この部分について。

(萩原市長)

先ほど、太田さんが言った話をどうまとめるか。書き方が相当変わってくるだろう。

(宮前教育総務課長)

このことについては、先ほどあった現状と課題を含めた修正をかせかせていただきたいと考えている。それに伴う施策の変更が生じてくる。

(萩原市長)

課題としては、先ほどのことに加えて、環境のことは園そのものという問題があり、湯郷が一昨年、大原・大吉が令和3年4月までかかる、残っているのは英田ということ課題として書いたほうがいいのか。行懇で質問があり、英田については令和2年度にどこがいいのか場所の希望を聞いて、山での設計と畑での設計は当然違ってくる。地権者が了解しているということになれば、そこをベースに進んでいくことになるので、最短で令和2年度に位置決めができて、令和3年度で設計、令和4年度に着工になるのではないかと答えている。明確な課題となっているので書いておいてもいいのかなと思う。施策7のところ該当するか。いずれにせよ、問題意識が少し違ってくるので、整理しなおしてもらいたい。

(竹内学校教育課長)

P5のところ、施策1の中学校区での小中連携教育について、学校での体制等取り組みを明確にすることを検討する。もうひとつは子どもの主体性を伸ばしていく、そういったことについて内容を考えたいと思う。

(丸山社会教育課長)

公民館の活動については、先ほど市長、委員さんで協議された、大原、英田の推進

状況は盛り込んでいる。専任館長の配置についても盛り込んでいるので、このままでいかせてもらいたい。

(萩原市長)

先ほど、勝田のことをはじめいろいろなことを申し上げている。個々の問題はこうなのだ、公民館の箇所数まで含めて話をしたにもかかわらず、これでいいということにはならない。

(丸山社会教育課長)

具体的な状況も踏まえて、現状と方向性、館長を早期に付けるという方向性を入れていく。

図書館については、移動図書館での新たな利用者の掘り起こしということを記載しているが、従来の図書館での利用についての周知についても拡大していきたい、学校には資格のある司書が生徒・父兄にも周知できるよう、またそういうことを踏まえた司書教育を進めていくことを付け加えさせてもらう。

(平田企画振興部長心得)

企画分野はP 9からとなる。10 ページの施策 2 の部分で文章の表現を見直させてもらう。11 ページになるが、4 の美作市の高等学校教育その他の学校教育の現状と課題というところで、当初は平成 27 年度の岡山県の総合戦略から引用していたが、少し明確でないため、平成 31 年 2 月に策定された岡山県立高等学校教育体制整備実施計画から引用することとする。その下になるが、ご承知のとおり林野高校が令和 2 年度から定員が 140 から 120 人に減る、課題として統廃合の対象になる可能性があることを表記している。施策 1 の学区特例設定に向けた働き掛けについては実現しているので削除し、番号を繰り上げていく。施策 3 については文言の訂正を行う。スポーツ医療看護専門学校の開設についても平成 30 年度に開設しているので、それに併せて文章の表現を訂正させていただく。

(萩原市長)

スポ少のところ、スポ少だけではない、クラブチームもあるという問題意識があるところを付け加えたほうがいいかもしれない。難しい文章になるとは思うが。

健康づくり推進課はどうか。別の項目に飛び出す感もあるが。

(山下健康づくり推進課)

就学前の質の向上の施策 1 に、発達支援センターの取り組みの内容については、ここに記入してあるとおりで、先ほど報告したものも入っている。今回追加をさせていただくのが、(2) 特別支援教育の推進の施策 4、4 ページになるが、今まで実施はしていたが記載がなかった、年 1 回発達支援講演会を開催し、発達障害への理解を深める機会を設けることを加筆している。もう一点、6 ページの家庭の教育力向上の中の施策 1 に、地域での学び場というところで放課後児童クラブの記入がもれていた。放課後児童クラブでも民間活力ということで、栄養委員さんや老人会の方に入っていたら、いろいろな体験をさせていただいている。そういった民間活力をさまざまな生活体験ということで、積極的に取り入れていきたいと思っている。

(萩原市長)

施策としては良いが、現状と課題のところ、現れていない。施策の裏返しになるが、

例えば放課後デイサービスなどはとても人気が高い。その辺の分析ができていない。それから、英田地域で第三の居場所作りを行うが触れられていない。

私からはこれぐらいであるが、皆さんのご意見を願います。

(平田委員)

美作市の高等学校教育にはいろいろと課題があると思うが、昨日の新聞で林野高校などに通学してくる子に補助金を出すとの報道があったが、施策に入ってくるのではないのか。

(萩原市長)

12月補正で、債務負担行為を要求していることがあって、林野高校が全国どこからでも来られるようになっており、下宿するようなことがあえれば若干支援をしようかという話で、滋慶もそうであるし、職業訓練校もそうなるし、定住してくれるのであれば支援をしようということが前々からあり、それを12月補正で出すという話になっている。

(平田委員)

林野高校に全国から、よそから来るということになれば、期待されることなので施策の中に入れてもらいたい。

(萩原市長)

わかりました。担当は市民部となるが調整する。

(大川教育長)

今一番の、全国的な話題は教員の働き方改革だと思うが、できる施策は限られているかもしれないが、やはり文言を背景として入れるべきでは。全く入っていないのは何をやっているのかということになる。例えば地域との連携で仕事を減らすとか、できるのはわずかな予算措置かもしれないが、働く時間を正確に把握できるようにするとか、学校からは留守番電話の要望もある。

(萩原市長)

教育大綱の中での位置づけがないのはおかしいが、あまり濃くなると教育大綱としての意味合いが変わってくるので、どこかに書かないといけませんが、うまい書き方をして職場大綱にならないようお願いしたい。

(大川教育長)

学校の、校長の経営改善ということの中に含むような形になるか、何かの形で入れたいと思う。

それから、英語力の向上ということもあるが、やはりキャリア。社会教育も含めて、そういう部分も少し含めて書き加えたらと思う。

(萩原市長)

スポーツのプロになりたいと言うのなら、英語はやらないといけないとすぐ頭に浮かぶ。

(大川教育長)

施策と言うわけではないが、そういうことも少し書き加えたい。

(岡本委員)

3歳未満児の子育てと言うか、家庭教育はやはり大切だと思う。入園する子が増えてきて、家庭は楽になっている可能性がある。できれば家庭で育てるように充実を求めたいが、子育て支援センターが中学区に1つずつと言うのはとても良いことだと思うし、一時保育に預けたくても預けられない現状もある。

(萩原市長)

一時保育は使われていない。年に数件と聞く。

(岡本委員)

閉鎖しているところもあるので、いつでも預けられるようすることも必要かと。

(萩原市長)

子育て支援センターはアウトリーチでやらないといけないという姿勢なので、来たら聞くよと言う姿勢ではなく。家庭教育の支援もしているということは書いてもいい。

(岡本委員)

3歳未満児の家庭教育というものが、教育のスタートだと思う。

(萩原市長)

やれと言ってやるものではないので、そこに子育て支援センターのアウトリーチが、行政的には抱えたいところかと思う。

(岡本委員)

特別支援は18歳までしっかり充実しているが、保育園でスクリーニングにかかる子が多いのだが、巡回相談をお願いしても、来てくれるまで時間がかかると言うのが全国的にも課題となっている。そういったところを美作市で受け入れできないかと考えている。

(山下健康づくり推進課長)

時間がかかるということについては、状況を把握できていない。

(佐々木委員)

P3の指標で、巡回相談回数0回から65回というすごい数字と、何とかお願いしませうと言うテーマが出ている。このデータが教育委員会とうまく繋がって、今こういう状況であるとか、よく連携と言うが、市長部局と教育委員会は距離も離れてツーカーと言うこともできにくい部分もあるのではないかと思うが、そのようなことはないか。

(太田教育総務課主査)

美作市の巡回相談はチームで1人の子どもの育ちを、発達を考えていくことにしている。チームは発達支援センターの心理士、地域の保健師、私、指導保育士、場合によっては津山のみのり学園、誕生寺支援学校も連携しながら行っている。もちろん園の先生が子どものことを一番知っているのだから、そういった情報を元に、行動観察をして、皆で、子どもの育ち、保護者支援のありかた、家庭・背景も含めてサポートして

いく、誰がどのように、それぞれの専門性を活かした支援の方向性を探っている。

(萩原市長)

形から入って、それができている。すばらしい。
0 から 65 回の説明は。

(太田教育総務課主査)

回数にこだわるわけではないが、一先生の努力、地域の保健師の努力によって、相談業務がなされていたのを、体制的にやっというここと。美作市の体制として整備していこうということ指標を示している。回数は見直しており、園の実態、ニーズなどの要因で、今現在 40 回程度となっている。園児数が少なくなっているところもある。例えば、東栗倉幼稚園では以前は年に 7 回実施していた時期もあったが、今の園児数が 7 名、土居幼稚園は 10 名という状況で、対象園児が少なくなった分を調整して、今は少なくなっている。

(大川教育長)

計画表を作って実施していることをご存知ないと思うので、要は適当に行っているわけではないということ説明するように。

(太田教育総務課主査)

資料編の 1 ページのように年間計画表を作成している。あくまでも計画なので、実際には子どもの実態、園のニーズに合わせて行っている。

(萩原市長)

成果はどうか。

(太田教育総務課主査)

大きい成果として実感しているのは、初めはこういう回数を園にお願いすると、園の先生方はまた巡回がやってくる、見られるという抵抗があるように感じていた。今は園の先生のニーズが高くなり、早く巡回相談を、早く相談したいとなっている。巡回相談で子どもをカンファレンスすることにより、育ちの状況の理解ができて、お互いの連携が進むことによって、子どもたちが発達していく、育ちに向かっているという成果が現れている。もう一点大きく変わったのは、もちろん特性のある子どもさんが相談に上がってくるが、一部は保育による問題もある。先生のかかわり方、問いかけの仕方、環境、導線、そういったものが、困り感に繋がるケースもあるので、保育の見直しと言う面でも有効になっていると思っている。

(平田委員)

昨年エアコンを設置し、非常に環境が良くなっている。特別教室が古くなっているところがある。そういう面での環境整備も進めてもらいたい。ソフトではなくハード面の整備もお願いしたい。

(萩原市長)

具体的にはどこの学校の、どの教室となるか。

(平田委員)

作東中などはきれいであるが、ほかは使っているのだろうかという教室もある。英田中学校の調理室など。

(萩原市長)

ハード面については小中学校とも悪いところがあるだろう。参考とさせていただく。他によろしいか。

(2)と(3)の意見交換も含めておありたいと思うが、(4)その他は。

(事務局：長畑秘書課長)

修正案の取りまとめについて決めておいたほうが良いかと思っている。

(萩原市長)

いつまでにやらなければならないという期限があるのか。

(事務局：長畑秘書課長)

特には決まっていないが、元年度版と言うこともあり年度内には発刊したい。

(萩原市長)

せっかくなので、よいものにしたいので、年度内にもう2度くらい会が必要か。皆さんに読んでもらい、最後に1回合わせてもいいのかもしれないが。

他には。

(山名教育次長)

教育部局は特にありません。

(萩原市長)

ないようなので、司会進行を事務局にお返しする。

5 閉 会

(事務局：長畑秘書課長)

長時間にわたり大変ありがとうございました。これを持ちまして、第8回美作市総合教育会議を閉会いたします。